

**[成果情報名] 縞葉枯病抵抗性を有する WCS 用イネ中生品種「つきあやか」の奨励品種採用**

**[要約]** 「つきあやか」は、「たちあやか」と同様の極短穂性と高い可溶性炭水化物含量を有し、消化性が優れる茎葉乾物量及び飼料栄養成分含量は「たちあやか」とほぼ同等であることから奨励品種に採用する。

**[キーワード]** つきあやか、WCS 用イネ、縞葉枯病抵抗性、極短穂、中生

**[担当]** 三重県農業研究所・農産研究課

**[分類]** 普及

---

**[背景・ねらい]**

近年、三重県内ではイネ縞葉枯病の発生が散見され、今後も増加が懸念される。県内では、WCS 用イネの栽培における中生品種として極短穂性の「たちあやか」の利用が多いが、同品種は縞葉枯病に抵抗性を有しておらず、今後 WCS 用イネの安定生産のためには、縞葉枯病抵抗性を有する品種の導入が必要である。そこで、縞葉枯病抵抗性を有する中生の WCS 用イネ品種を奨励品種に採用する。

**[成果の内容・特徴]**

「つきあやか」は、「たちあやか」と比較して、以下の特徴を示す。

1. 出穂期及び黄熟期に差がない。黄熟期における穂長及び見かけの穂長が短く、極短穂性を有する（表 1）。
2. 地上部乾物収量に占める穂部割合は小さく、消化性が優れる茎葉乾物収量は同等である（図 1）。
3. 黄熟期における飼料栄養成分はほぼ同等で、良質なサイレージの目安とされる乾物中 10%以上の高い可溶性炭水化物含量を有する（表 2）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 「つきあやか」は、2024 年 3 月に本県の奨励品種に採用となった。
2. 本試験結果は、三重県農業研究所内ほ場（三重県松阪市）で実施し、イネ縞葉枯病の発生がない条件で得られたものである。
3. 「つきあやか」は、農研機構（育成地）における保毒虫接種による幼苗検定法により、イネ縞葉枯病に抵抗性があることが確認されている。
4. 「つきあやか」は、生育特性及び収量、飼料栄養成分が「たちあやか」と同等かつ縞葉枯病に抵抗性がある中生品種であり、「たちあやか」の代替品種として普及が見込める。

[具体的データ]

表1 出穂期および黄熟期の生育特性

品種	出穂期 (月/日)	黄熟期 (月/日)	黄熟期						倒伏程度 (0-5)
			草丈 (cm)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	見かけの 穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	稲体水分 含有率(%)	
つきあやか	8/3	8/27	142	109	12.2	8.4	323	62.5	0.0
(比)たちあやか	8/3	8/27	140	107	13.1	9.0	295	62.7	0.0

注1) 2022年と2023年の2ヶ年の平均値。

注2) 移植日：2022年は5/16, 2023年は5/15, 栽植密度：60株/坪、植付け本数：4本/株、総窒素施肥量：13.2kg/10a

注3) 黄熟期は、出穂期からの積算日平均気温が680℃に到達し、かつ黄化粉の割合が50～75%になった日。

注4) 見かけの穂長は、穎花が着生した最も低い位置の一次枝梗から穂先までの長さ。

注5) 倒伏の程度は「無」(0)～「甚」(5)の6段階評価。

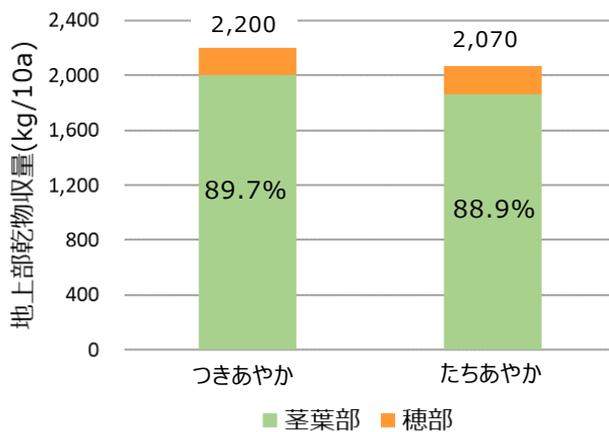


図1 地上部乾物収量 (2ヶ年平均)

注1) 栽培年、移植日、栽培方法は表1と同様。

注2) 黄熟期に収穫した時の値。

表2 黄熟期の飼料栄養成分 (乾物中%)

品種	粗たん白質 (%)	炭水化物 (繊維)			炭水化物 (非繊維)			TDN* (%)
		NDF* (%)	ADF* (%)	リグニン (%)	NFC* (%)	でんぷん (%)	可溶性炭水 化物(%)	
つきあやか	5.1	43.9	29.8	3.1	40.6	24.0	15.4	60.5
(比)たちあやか	4.8	46.2	31.2	3.1	38.4	23.7	14.0	59.7

\* NDF：中性デタージェント繊維、ADF：酸性デタージェント繊維、NFC：非繊維性炭水化物、TDN：可消化養分総量

注1) 2022年と2023年の2ヶ年の平均値。

注2) 黄熟期に地際10cmで刈り取った稲体を60℃48時間で風乾後、微粉碎したサンプルを分析に用いた。

注3) 全国酪農業協同組合連合会分析センターによる分析値。

注4) 可溶性炭水化物は、2023年のみ三重大学による分析値。

(山吉咲綺)

[その他]

研究課題名：飼料用イネ品種の三重県適応性の解明

予算区分：執行委任 (畜産課)

研究期間：2022～2023年度

研究担当者：山吉咲綺、大野鉄平、本多雄登、中山幸則